

ボランティア・パートナーシップとイニシアチブ

IBM は政府および非政府機関(NGO)が主催する数多くのボランティア・イニシアチブおよびパートナーシップに参加しています。例えば、米国環境保護庁(U.S. Environmental Protection Agency: EPA)のエナジースター・プログラムや気候リーダーズ・プログラムまた、産業、イノベーション、起業家精神についてのOECDの委員会です。

非政府組織(eNGO)との提携で注目すべきものとして、世界資源研究所(World Resources Institute: WRI)のグリーン電力市場開発グループ(米国と欧州)のメンバー、世界自然保護基金(World Wildlife Fund: WWF)のクライメート・セイバース・プログラムの創立メンバー、ピュー気候変動研究センターおよび英国のクライメート・グループのメンバーとしての活動があります。IBM はまた、環境保護基金、環境法令協会、世界環境センター、WRI などの団体とともに行動し、活動を支援しています。さらに、IBM はグリーン・グリッドの創設メンバーであり、また持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)のメンバーです。

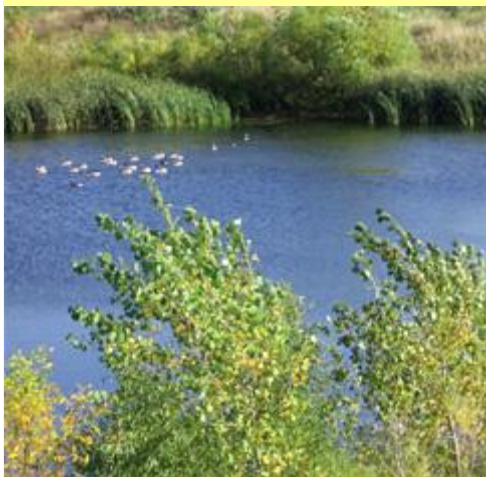
より完全な IBM のボランティア・パートナーシップとイニシアチブのリストは、www.ibm.com/ibm/environment/initiatives/を参照ください。

生物多様性の保全

科学技術の発展が豊かな生活をもたらす一方で、新型インフルエンザや狂牛病などの感染症、遺伝子組み換え作物や薬草に代表される植物や生物に対する特許・所有権の問題など、私たちはこれまで思いもよらなかった難問に直面することになりました。これらの背景には、人類の健康や安全への保障のみならず、先進国と発展途上国との経済と権利の相克が存在します。従来のように公害問題が特定地域で起こり、因果関係の究明が容易だったのに比べて、急速な科学の発達とグローバル化によって引き起こされた感染症や生物多様性の問題は、対応が遅れがちです。生物多様性の保全は、1992年に採択された生物多様性保全条約により国際社会の共通認識となり、次世代に生物資源や遺伝子資源を引き継ぐための取り組みが求められています。

IBM は、野生生息地審議会(Wildlife Habitat Council: WHC)と協力して、所有地の一部を野生生物の保護のための生息地として保全し、社員のボランティアによる野生生物チームが巣箱作りや環境教育などの活動をしています。土地管理と野生生物の生息環境プログラムについてWHCの認証を受けているIBMの7事業所は以下のとおりです(認証年)。

- 米 国: ニューヨーク州アーモンクの本社(1991年)
- カリフォルニア州サンノゼのアルマデン・リサーチ・センター(1991年)
- コロラド州ボールダー(2001年)
- ノースカロライナ州リサーチ・トライアングル・パーク(2001年)
- カリフォルニア州サンノゼのシリコンバレー研究所(2003年)
- ミネソタ州ロチェスター(2008年)
- カナダ: トロントの IBM ソフトウェア研究所(2000年)



ミネソタ州 IBM ロチェスター事業所の施設が WHC に認証

ミネソタ州 IBM ロチェスター事業所の施設が 2008 年 WHC に認証されました。約 80 ヘクタール (200 エーカー) の未開発地に囲まれた事業所の作業プログラムにより野生生物の生息環境を向上させるよう心がけています。野生生物の生息環境改善プロジェクトにより蝶の草原の管理、10 個のルリツグミの巣箱の設置と手入れ、固有の草原への復旧と教育、雑木林へ侵入するクロウメドキの管理、余分な駐車場の一部をオークサバンナ草原へ改造などを行っています。

IBM の社員がこれら生息環境の改善のために積極的な運営に重要な役割を果たしています。また、野生生物チームに参加した社員により土地固有の植物、樹木、鳥類、野生生物の総合的な種の目録も作成されています。

社員のボランティア活動の支援

IBM は、社員に環境関連活動を支援するように奨励しています。例えば、ネーチャー・コンサーバシブや世界自然保護基金から、地元コミュニティの土地や生息地の保護に努力している小規模グループに至るまでのグループに対し、米国社員が行った寄付に、マッチング・グラント・プログラムを通じて(上積み)寄付を行っています。

オンデマンド・コミュニティ (On Demand Community[®])

IBM は、社員が継続的にボランティア活動ができるよう、ボランティア・サービス休暇/休職制度を設けているほか、2003 年からは、ボランティア活動を支援するための世界的なプログラム「オンデマンド・コミュニティ (ODC)」を始めました。

IBM 社員は、ODC を通じて、各地元コミュニティの環境団体を支援することができます。ODC は、ボランティア活動を通じた企業の社会的貢献活動を奨励し支えるイニシアチブであり、世界的規模で行われるものとしては他にはない活動となっています。このもとで IBM の社員や退職者は、IBM のテクノロジーをツールとして提供してもらい、それを利用して、ボランティア活動の場である学校や環境団体などの非営利コミュニティ組織に役立てることができます。このプログラムでは、IBM 社員の専門知識、関心とスキルを IBM の革新的なテクノロジーやソリューションのパワーと組み合わせることにより、非営利団体がコミュニティの課題やニーズに一層効果的に取り組めるようにするための支援を提供しています。

ワールド・コミュニティ・グリッド

ワールド・コミュニティ・グリッド (World Community Grid™: WCG) は、先端技術であるグリッド・テクノロジーを活用して、IBM が人道的な課題解決のために世界規模で取り組んでいる社会貢献プログラムです。

WCG は、個人や企業が所有するコンピューターのアイドリング時の処理能力を結集して、グリッド・コンピューティングの先端技術により、「仮想スーパーコンピューター」を構築します。これを用いて、世界規模の医療や環境の課題、また、社会的に難しい課題を解決するための研究を支援する活動です。

2004 年 11 月のプログラム発表以来、世界中で約 48 万人、約 138 万台のコンピューターが登録され、これまで

- アフリカ気候モデリング
- 効率的な太陽電池開発
- 栄養価の高い米を世界に
- ヒトたんぱく質解析
- FightAIDS@Home
- がん克服支援
- 筋ジストロフィー治療
- デング熱治療薬開発
- 小児がん治療薬開発
- インフルエンザ抗ウイルス剤検査

など、14 件の研究プロジェクトに演算処理能力を提供しています。「アフリカ気候モデリング」および「効率的な太陽電池開発」の詳細は、「気候支援イニチアチブの支援」をご覧ください。

WCG は、インターネットに接続可能なパソコンの使用者であれば誰でも参加できます。WCG の詳細は、以下のリンク先をご覧ください。

<http://www.worldcommunitygrid.org/>